会報 むすび

四十周年記念号

取り戻そう日本の心
伝えよう日本の伝統文化

第 27 号
平成15年3月吉日
○発行所○
栃木県青年神職むすび会
会報編集委員会
○発行人○
星野芳典
○印刷所○
㈲中津印刷所

目次

前会長挨拶……1
四十周年実行委員長挨拶……2
栃木県神社庁長祝辞……3
栃木県神社総代連合会長祝辞……4
新会長挨拶……5
歴代会長挨拶……6
四十周年記念事業内容
雅楽チャリティーコンサート……10
御田植祭・抜穂祭・初穂曳……12
戦没者慰霊祭に参加して……13
三県合同青少年育成行法研修会……14
チャリティーゴルフ大会……15
記念植樹……16
創立四十周年記念大会開催……17
大会ビックアップ……21
思い出の写真集……22
協賛芳名簿……24
会員神社紹介……26
平成十四年度事業報告……27
役員・幹事・各種委員会名簿……28
退会者・ご結婚・ご誕生……29
編集後記……29

創立四十周年を迎えて

栃木県青年神職むすび会
会長　星野　芳典

先ず以て、皇孫殿下の健やかなる御成長と、皇室におかれましては諸祭事滞りなく執り行われております事、お慶び申し上げます。

又、高円宮殿下におかれましては、本当に急な御去の報に接し、誠に残念でなりません。殿下には神青協の周年式典には何度も御臨席を賜り、お言葉を拝聴致しましたり、またワールドカップでも国旗「日の丸」推進事業においても多大なるお力添えを賜り、神青協とは深いお付き合いをさせて戴いておりましたが、心痛に耐え難き思いであります。慎んで心中より御冥福をお祈り申し上げます。

扨、此の度当むすび会におきましては、本年度創立四十周年の記念の年としまして、様々な事業を展開してまいりましたが、去る二月二十一日の記念式典には、県内諸先輩方を始め全国より神青協の役員、又一都六県の同志の皆様方、そして神社界に関係致します大勢の皆々様の御参集のもと、かくも盛大に式典が開催出来ました事心より厚く御礼申し上げます。これも偏に皆様方の御厚情と多大なる御協力、そして深い御理解の賜物であり感謝の念に堪えません。四十年と一言で云いましても、戦後の厳しい中先輩方がどれだけの熱い思いでこの青年会を立ち上げ、そして受け継いで来られました事、改めて痛感致しております。今回はその一つの通過点であり、これから先も五十年・百年と続いて行くものと確信しております。しかし乍ら昨今の世情としましては、神社界においては非常に厳しい時代の局面に立たされております。それを今後如何に打破し、日本人が本来の日本人としての豊かな心を取り戻し、そして日本の古来より受け継いで来られました伝統・文化を今後も絶やす事無く、子々孫々迄継承させるべく、我々青年神職の与えられた使命として、斯界の尖兵となりこの混沌とした世の中を一日でも早く明るい未来になる様、努力邁進して行く所存であります。

最後に、私事となりますがこれで退会となります。この青年神職むすび会に入会して丁度二十年が経ちました。初めは右も左も判らず夢中で取り組んでまいりましたがやがて責任感も湧き、そして関東地区を初め全国に同志が出来、今思えばこの二十年間はあっと云う間の出来事だった様な気がします。そして今自分があるのもむすび会あってのものですし、色々な先輩方に教えられ、支えられて成長してまいりました事深く感謝申し上げます。

むすびに、素晴らしい会員に恵まれ仲間に出会えた事、一生の誇りと思い出として、これからの自分の人生に役立てて行きたいと思います。

本当に有り難う御座いました。

創立四十周年を迎えて

栃木県青年神職むすび会
四十周年実行委員長　小林　靖

むすび会四十周年を記念して行ってきた一連の事業も、本年二月二十一日の記念大会を以て、凡そ、その計画を無事達成することができた。

これらの事業にあたって、物心両面から、ひとかたならぬご理解・ご協力・ご助言を戴いた県内神社界の諸先生方を始め、諸先輩の皆様に衷心より篤く御礼を申し上げます。

私共の行ってきた各事業については、周知の通りであるが、就中、思い出深いものとなったのは、雅楽・舞コンサートである。

浄闇の中篝火に照らし出された舞台。どこまでも澄み透る三管の音。まさに幽玄の世界を見ているようだった。観覧席から漏れた溜息を私は忘れない。

終了後、多くの方から毎年開催して欲しいとの声が寄せられ（本年も四月二十八日に開催すること決まった。）。更にはチャリティーということで、多くの貴重な浄財が寄せられた。誠に有難い限りである。これらの寄附金は交通遺児育英基金に寄附された。社会福祉事業の一助となれば幸いである。

また、記念大会では、御奉務ご多端の砌にも拘わらず、栃木県神社庁長　吉田健彦様、総代連合会会長塚本美代次様を始め、県内神社関係者、歴代会長様、神青協中央役員、関東地区神青会の導師多数のご出席を賜り、盛大に執り行われたことは、誠にありがたく、感謝の念に耐えない。

その折りに戴いたご祝辞、叱咤激励のお言葉は、私たちの心に強く響き、身の引き締まる思いであると共に、明日からまた始まる神明奉仕の力になった。

このようにむすび会四十周年記念の諸活動は一応の成功を見た訳であるが、もとより三年間という限られた準備期間と、私の力量不足によって、関係周囲のご期待に十二分に答えられたとは必ずしも言えないだろう。

しかし乍ら、何よりも心強かったのは、星野会長の強力なご指導と、各部門会において大いに力を発揮してくれた若い会員皆の支えであった。誠に頼もしく、嬉しかった。心より感謝を申し上げたい。

「ひとつの終わりは次への始まり」。むすび会はこの四十周年記念事業で歩みを止めるのではなく、次の五十周年、百周年にその活動をつなげて行かなくてはならない。斯界の尖兵として、これからいよいよ混迷を迎えるであろう次世代においても、より一層の神社神道の興隆に貢献して行かなくてはならない。次代を担う若い会員諸氏の活躍に期待したい。

結びにあたり、昼夜を分かたず作業を進行してくれた会員各位はもとより、県内神社関係者、神社庁の皆様、歴代会長の皆様に、心より篤く御礼を申し上げますと共に、今後共、益々のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

思い歩く

栃木県神社庁
庁長　吉田健彦

本年、栃木県青年神職むすび会創立四十周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。青年神職むすび会が、戦後の荒廃した社会情勢の中で、ようやく経済的に明るい兆しが見られる様になった昭和三十七年三月四日宇都宮市塙田町の旧栃木県神社庁舎二階講堂にて発会致しました。

当時、本県にては永い間神道青年会の活動が休眠の状態でありましたが、栃木県神社界もようやく若い神職を採用する様になり、そんな中青年神職同士が、何か語らいの場を持とうではないかとの考えに基いて産声をあげた訳であります。時代の流れは、神社を取巻く環境も変改の状況にあり、今次大戦によって荒廃した社殿の復興、又境内地整備、失われつつある日本の古来の伝統文化の継承、鎮守の森からは若者が都会に去り祭典執行すら危惧される現状で、そんな時村祭り帰郷運動の雄叫びがどこからともなく上って来た。日本の再生は行き過ぎた戦後の民主教育が、日本人の心と誇りを失墜させ、利己主義に走らせた感がみられた。

そんな折、青年神職むすび会が結成させた事は真に時宜をえたことであり、爾来栃木県神社庁教化委員会の傘下のもと、氏子青年会と共に社会福祉活動に積極的に参加し、神宮大麻奉斎運動にも、たゆまぬ活動を進められたことは、これからの青年神職相互の研鑽にも努められて、様々な情報を広い視野から捕え、変化する社会情勢に対して適格な判断を養う事が今求められている時で、特に大切なことと思われます。

この佳節の年に会員心を一つにし、皇室を敬愛し、美しい伝統、祖先より連綿と続く悠久の歴史、美しき貴風を守り、豊かな国作り等日本社会構築の為、地域社会における更なる実践活動に努められ、それぞれが真の心を持ち神社神道の興隆のために、奉仕願い度く存じます。

むすび会の五十周年に向けての更なる発展を願いつつ。

むすび会創立四十周年を祝して

栃木県神社総代連合会
会長　塚本　美代次

本日は栃木県青年神職むすび会創立四十周年の記念式典が盛大に開催されますことは、誠にお目出度く心から御祝い申し上げます。

孔子は「十五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず。」と云われております。四十周年は人生の一区切りであり、色々な体験を重ね善悪をも乗り越え、一応の目的に到達すると考えられるからです。

戦前は国の指導のもとにあった神社神道も、戦後は一変して神道指令によってその存在の危うきにも立ち至りました。神社界の長老先輩神職が昼夜の別なく、全国八万神社の総意をまとめて神宮を本宗と仰いだ全国神社界の組織が完成したことは、天祐神助の賜と痛感している次第です。栃木県下の千九百十一社の神社も県神社庁を中心として強固な組織体を形成し、生活の中に内在している神道の教義を押しひろめ、不安定な社会状況に対し心の安定に貢献したことは、誠に敬服した次第です。

国の将来のため、この神道の教義をひろめるには、次代をになう青年神職の活動があってこそ実現し得るものです。四十年前、青年神職むすび会が結成されましたことは、神社界として最も力強く喜ばしいことでした。

我が国の経済界は銀行の不良債権問題解決が遅々として進まず、また政治も安定せず、国際社会ではイラク、北朝鮮を中心に軍事紛争の危機をはらんでおります。戦後の偏向教育により何事にも物質万能優先の社会をつくり出し、日本古来の精神・文化・伝統も忘れ去られつつありました。しかし、物より心の大切さが求められはじめた現在、神社神道の教義が重要視されております。今こそ青年神職むすび会の活躍の絶好の機会です。神社神道が中心となり、日本の美風伝統を信仰する時機が到来したのです。

皆様には、健康には充分留意されて益々ご活躍下さることをご期待申し上げ御祝いの言葉といたします。

創立四十周年を迎えて

新会長　菱沼至広

昭和三十七年に生を受けたこのむすび会が、若手神職の親睦・研鑽の場として、これまで様々な歴史を刻みながらも恙無く歩んでこられましたのは、これ偏に諸先輩方の一方ならぬご苦労と、関係各位の皆様の御理解御協力の賜物と、創立四十周年を迎えるにあたり、あらためて深く感謝を申し上げる次第でございます。

小生自身、神職として右も左もわからない成り立ての頃に、むすび会で先輩方に御指導頂いた事、励ましを受けた事が今の神明奉仕にどれだけの糧となっているか計りしれません。特に会議が終わった後、酒を酌み交わしながら戴いた飾り気の無い御教示程、何時までも心に残っているものです。奇しくもむすび会と同じ昭和三十七年に生を受けた小生が、人間として大きな節目ともなる四十歳を迎えて会長という大任を仰せつかりましたのも、今までむすび会で受けた様々な御恩に対し、ほんの少しでも役立つ事をしてから退会をしろという神様からの御声と肝に銘じ、誠心誠意むすび会の発展の為に努力していきたいと存じます。

神職として第一歩を踏み出したばかりの神職子弟が集う場所として、むすび会の負う責任はとても大きいと思います。活動を通しての人と人との交流、諸先輩方からの経験を交えての意見。そのどれをとっても、これから神職として踏み出してゆく人間にとって大きな財産となることでしょう。自分自身むすび会入会当時から、言葉では言い尽くせぬほどお世話になった星野前会長の後を受けて、果たしてどれほどのことが出来るか不安で一杯ですが、むすび会創立当初の目的であった若手神職の親睦と研鑽という原点に戻り、会員相互の交流と勉強会に力を入れていきたいと思いますので、諸先輩の皆様には今後も御指導、御教示の程宜しく御願いを申し上げます。

歴代会長挨拶

設立四十周年によせて

初代会長　横瀬勝壽

栃木県青年神職むすび会設立四十周年をお喜び申し上げます。

昭和三十七年五月四日設立されたむすび会は神社界の将来に深く思いを致し結成されました。その後、歴代会長始め会員皆様の熱心な活動と努力により、会の運営は円滑に、立派な事業足跡を残して発展継承されて来ました。まことに嬉しく深意なる敬意を表す次第です。

今日、地方分権、更なる情報化社会と激しく変り行く世情にあって社会規範の崩れと共に人々の心も乱れ、教育のみならず多くの社会問題が存するときに、神職の担う道は重く大きいと言わざるを得ません。

氏子崇敬者・地域社会の人々に伝統文化をよく説き、特に青少年に日本の崇敬情操を培い育む努力が肝要なときと思われます。

今後、会員皆様の教化実践活動のもと、この点に於ける事業展開が必要かと思います。

ここに所見の一端を申し述べ更なる会の発展と会員皆様の愈々のご活躍を御祈念申し上げます。

四十周年を祝して

四代会長　提箸克之

青年神職むすび会が、設立四十年の佳き年を迎えられ、誠にお目出度うございます。

今日までの間、多くの会員各位の熱意とご尽力に対し改めて敬意と祝意を表する次第です。今回も会長、役員はじめ会員の皆様の企画と結束により、種々の記念事業が実施されており、誠に意義あることと同時に、大変頼もしくあり、斯界の興隆発展にとっても、有難いことです。

時代は絶え間なく流れ、その世相は刻々と変化をしており、その間に、悠久な歴史を有し、民族と隆替を共にしてきた神社が、今は如何なる姿にあるか、吾が民族の詩を育み、夢と希望を生み、理想を培ってきた神社、その神社神道の精神は不易なるものであり、私達の大前提であり心得えです。

その精神を堅持して、当むすび会員一人一人が自己啓発と研鑽を重ねて、強い信念と実践活動によって、次世代を担う後継として更なる期待と飛躍を希う一人です。

日に新にして、日々に新たなる感激を以て、本来の任務である祭祀に奉仕し、神道精神を実践活動に生かされるよう切望しています。

そして自分等の責任に於いて、神社が如何なる姿にあり、如何に氏子崇敬者に働きかけているかを…今後も明らかにし、多くの人々の胸に生かされ、幸福や福祉の増進に役立つようともに努力しなければならない。と思いながら所感とする次第であります。

四十周年を祝して

五代会長　黒川正邦

四十周年誠におめでとうございます。日頃の活動御推進に心より敬意を表します。

今、日本はあまり元気がありません。先の戦争の責任をドイツはナチスにかぶせました。日本は戦争の原因を日本文化・日本的なものに負わせました。そしてその日本文化・日本的なものを否定し、物質的豊かさのみを求め、心の豊かさをなおざりにしてきました。今、そのツケを払わされているのです。

その社会の元気さを見るにはその社会の青年を見れば分かると言われます。栃木県神社界の元気はむすび会の活動いかんに

かかっています。日本文化・日本的な良さを発揚させる為にむすび会の益々の御発展・御活躍をお祈りいたします。

むすび会の行く末

六代会長　阿部　憲

Qねぇねえ　むすび会って何？
　おむすびでも食べる会なの？
A県内の若手神主の集まりだ。
　神社界の発展のため、いろんな事業をして親睦を深めてるんだ。
Qどんな事業をしてるの？
Aいろいろ・・。特に神道教化の事業。
Qへェー。教化事業って神社庁の教化委員会がしてること？
A教化委員会に協力もするけど独自でも活動してる。毎年、榊を植樹して杜を育てる手助けをしたり会報の発刊や日頃の神明奉仕に役立つ研修会や飲み会も・・ハハ・・。各県の若手神主が協力して大きな事業もやる。交流も全国的だ。
Qンー。スゴイんだねぇ。でも、むすび会じゃなくて神社庁の教化委員会でもそういうの、やってるんじゃ・・・。世の中どんどん変わってく時代に、四十年一日の如くに毎年同じ事をやってるようだけど…。
Aウーン・・・。
　設立四十周年おめでとう！この後に続く答えを頼みます。

むすび会の心を大切に

七代会長　栃木県神社庁教化委員長　中　麿　輝　美

　栃木県青年神職むすび会創立四十周年を迎えられ誠におめでとうございます。
　年月の流れが最近早く感じられるようになり、まだ若いと自負していたが、むすび会を退会して早くも拾有余年がたったのかと何か複雑な気持です。
　栃木県青年神職むすび会は、他県の青年会にない〃むすび〃という名称に表現されているように、会創立当時の先輩諸兄の熱き心意気がその根底に流れていることを再認識すると共に、〃むすび〃の名称に秘められた奥の深い意味をかみしめながら〃むすび〃の心を大切にし、失なわれつつある日本人の精神的基盤である伝統文化護持・継承等の為に若き行動力を持って躍進されることを期待する次第であります。

若者よ、果敢に行動せよ

八代会長　柳　田　耕　太

　時代の風を正面から受け、疾風の如く闊歩できたことは、何と素晴らしい青春時代であったことか。全国に多くの同士と友も出来た。勿論、むすび会の活動を通りして成せることです。我が栃木県は独立精神旺盛な先輩が沢山いて、私の入会の時は、栃木県教化部青年部と当会の二枚看板を使いこなしていた。黒川会長の時、本会名にて神青協の正式加盟団体としたのです。現在の県庁長様や先輩方とは口角泡を飛ばしながら激論したことなど大変懐かしく思います。又、私が神青協に出向中に関東地区大会を栃木県が主管できました。会員のパワーのおかげです。（東照宮の離脱時期）

　今毎年の伊勢神宮評議員会や本庁全国教学大会などに参加すると、必ず神青協当時の仲間や先輩方に出会います。その都度酒宴をかわし、情報の交換が出来ます。大変有難いものです。
　さて、私共が信奉し求道・実践している「神道」が世界人類の平和と民族の融和を導く時代となりました。なんと、二十世紀末の生命工学の遺伝子解明により判明しました。地球上の全ての有機体が同族（スーパーファミリー）であり、多神教の世界だとのこと。生きとし生けるものの命（いのち）の共生と環境保存の時代の到来なのです。自然への畏敬の念の復活と祖先崇拝を実践しましょう。言霊活動と地域社会貢献を多いに叫びましょう。それから、祭り人の育成も不可欠也。若者よ、果敢に行動せよ。

若さと行動で！

九代会長　若松豊明

創立四十周年を迎え、星野会長を中心に神社神道を通して強く結ばれた会員が、斯道の尖兵としての自覚のもと自己研鑽に励まれ、着実にその成果を挙げておりますこと慶賀の至りに存じます。本会は、現在の本県神社界の中心となって活躍しておられる大先輩達によってその礎が築かれ、青年神職として情熱を傾け当面する幾多の諸問題に取組んで来られました。

四十周年の慶事を迎え諸先輩が歩んでこられた困難苦労の足跡をたどりながら本会設立の意義を再認識し、新たな決意のもと次の飛躍に備える節目として、大いに意義があると存じます。

今後とも青年神職の特権である若さと行動力を生かし、失敗を恐れることなく経験を実行の源とし、青年会活動に積極的に参加され、斯道興隆のためご活躍されます事を心より祈念致します。

地球にも限りがある

十代会長　上野喜則

私も今年で四七歳、昨年より老眼、四十肩等体力的な衰えを感じている。世に還暦が有るように、私は六十年で一区切りであると考えている。

地球が誕生して四六億年が過ぎ、地球の寿命が百億年といわれる中、半分の時が過ぎた。人の命も、地球にも寿命がある。その限られた時間の中で、これから自分は神社人として何をすべきなのか。

神道は、自然に宿る神々を敬い、自然との共生を図り、数千年に渡り継承実践してきた。今こそ、神道の考え方を日本中に満たし、さらに日本から世界に発信させ、地球環境と人間生活の調和をめざすべき時であると思っている。むすび会員の若い、柔軟なアイディアで、この地球環境問題を活動のテーマの一つとして取り上げ、そして具体的な行動を起こして頂きたいと強く望むものである。

頑張れ

十一代会長　柳田文司

栃木県青年神職むすび会創立四十周年、誠にお目出度ございます。又、ご苦労様でした。

私は現在、神社庁教化委員会員であり、むすび会員も会長以下数名が教化委員に携わっておられ、大変お世話になっております。御礼申し上げます。

顧みますれば私も三十周年期に役員を仰せ就かり、「ビデオ制作」、「栃木の神社めぐり」、「チャリティーコンペ」等と様々な事業を行った記憶が思い出されます。

貴会は「自己の研鑽」、「会員相互の親睦」を目的に発会され会員数も増し、年々歳々その活動を行っておられます。敬意を表します。

しかし、二十一世紀に入り、戦後六十年が過ぎようとして國内外ともに情勢は混沌とし、国内ではパナウェーブ研究所なる新興宗教集団、海外では朝鮮問題やテロ、イラク戦争等と、心の豊かさ・ゆとりがありません。

その中で我々神社神道に課せられた課題は大なるものがあります。青年神職の皆さんにも若さある行動力を期待しています。

どうか体に留意されまして益々ご活躍されます様御祈念申し上げます。頑張って下さい。

むすび会四十周年を記念して

十二代会長　稲　寿

このたび栃木県青年神職むすび会が創立四十周年を迎えるにあたり、斯界のため目覚ましくご活躍されていることに対して、深甚なる敬意を表し心からお慶び申し上げます。

顧みますと、昭和五十六年から平成九年まで、会員として参加してまいりましたが、この間何とか職責を全うできたのも、歴代会長はじめ、会員諸兄の力添えによるものと回顧し、感謝いたしております。今後、更にむすび会の伝統を後輩達に引き継ぎ斯界の尖兵として、日本の

伝統文化を守り、神道精神を忘れず邁進していくことを期待いたします。

むすび会の思い出

十三代会長　加藤直人

むすび会創立四十周年誠におめでとうございます。

私自身も創立二十五年・三十年・三十五年の時は役員として記念事業にかかわり、むすび会に育てて頂きました。

なかでも創立三十周年の時には、上野喜則会長の下、事務局長として数々の失敗を重ね、事業を進めて行ったことが懐かしい思い出です。那須で開催した第一回目の役員会では、今は亡き中山光明さんと論争したり、初めての海外宗教視察予定地のタイでは、行く前に暴動が起こり、先輩方にご心配をおかけしたり、今では良い思い出になっています。

現役会員のみなさん、むすび会でたくさん仲間をつくり、これからも御活躍下さい。

周年事業は会の蘇り

十四代会長　上野武男

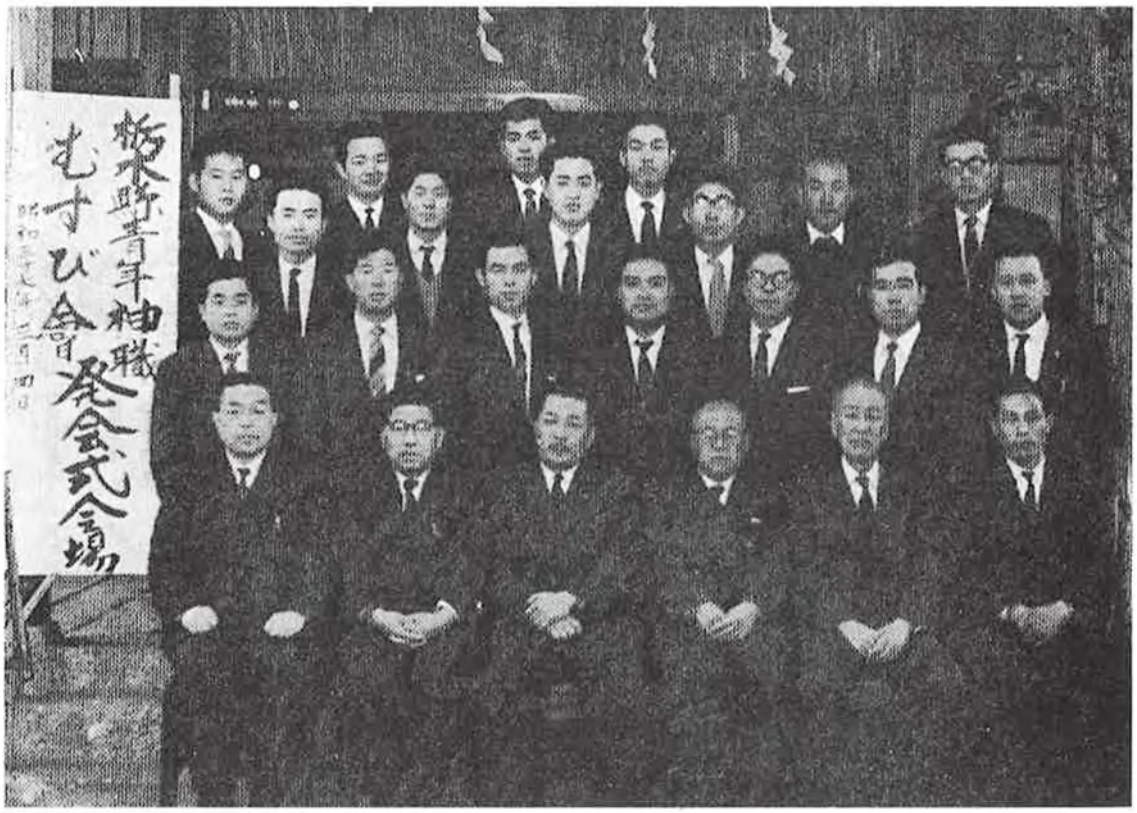
むすび会創立四十周年誠におめでとうございます。

過去、数々の記念事業が展開されてきました。私のむすび会在任中、一番記憶にあるのは、三十周年・三十五周年の記念事業であります。当時、「我々は何をなすべきか」を模索し、議論した末、その時代に即応した記念事業が生み出された様に思います。

会員ひとりひとりが、ひとつの目標に向かってそれぞれの役割を担い、その中で会が再生され、より強く結束する機会を得た思いがいたします。

今回の四〇周年事業を通し、会と会員が、新たな強い力を得て、再生されることを懇望しております。

会員の皆様には、斯界の尖兵たる存在理念を持ち、星野会長のもと、さらに飛躍されることを記念しております。



四十周年記念事業内容

雅楽チャリティーコンサート

古峯神社　権禰宜　渡辺幸雄

栃木県青年神職むすび会創立四十周年記念事業として、「取り戻そう日本の心。伝えよう日本伝統文化」と銘打ち、宇都宮市、栃木県護国神社において、四月二十八日午後七時より、雅楽チャリティーコンサートを開催致しました。

今日の我が国の雅楽は、古来より日本人が培ってきた音楽と、アジアの各地で生まれ育ち、約千四百年前から日本に伝わってきた音楽が融合し、平安時代に整えられたものといわれます。

雅楽の演奏は、声楽・管絃・舞楽の三つからなります。

声楽は通常謡物と呼ばれ、神楽・東遊・倭舞・久米舞などの舞の伴として演奏されたものと、催馬楽・朗詠のように舞の伴わないものとがあり、いずれも付け物といって、いくらかの管楽器・絃楽器・打楽器が揃えられます。神楽・東遊・倭舞・久米舞には、和琴・笏拍子が使われ、神楽には神楽笛、東遊には狛笛、その他には龍笛が使われます。また催馬楽には三管（鳳笙・篳篥・龍笛）と笏拍子、朗詠には三管が用いられます。尚、篳篥は全ての謡物に用いられ、またこれらの謡物のうち、神楽・東遊・久米舞等は、古来より、日本人が培ってきた音楽です。

管絃は、雅楽の最も代表的な演奏形態であり、鳳笙・篳篥・龍笛の三管、琵琶・箏の二絃、鞨鼓・太鼓・鉦鼓の三鼓によって奏されるものです。西洋音楽における管絃楽では、主に絃楽器がメロディーを受けもちますが、雅楽の場合、管楽器がメロディーを受けもち、琵琶・箏の絃楽器はリズムを受けもつ点が非常に対照的です。

舞楽の演奏は、舞の伴奏として、三管・三鼓によって奏されるものです。

雅楽の伝来は、通常、中国及び林邑（現在のベトナム地方）等から伝わったものを唐楽や左方と呼び、朝鮮・渤海国（現在の中国東北地方）から伝わったものを高麗楽や右方と呼び現在に至っています。なかには、長い歴史の中で伝承が絶えた曲も数多くあります。舞楽には伝わり方により幾つかの演奏形態があり、左方の場合は、三管三鼓、ごくまれに二鼓を用いて演奏され、舞の特徴としては、赤色系統の

浦安の舞

管弦

装束を用い、また入退場は正面から見て左側から行います。右方の場合は鳳笙を外し、鞨鼓のかわりに三ノ鼓を、龍笛のかわりに狛笛を用いて演奏し、舞楽装束も緑色系統を用い、入退場は右側から行います。また、舞楽の形状から文舞・武舞・平舞・走舞・童舞などに分類されます。

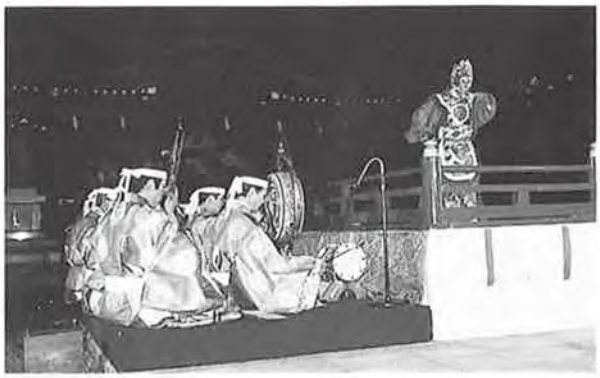
今回は、初めてのコンサートということで、古峯神社と日光東照宮の楽部の方と合同にて演奏会を奉仕いたしました。当日は、午前中から好天に恵まれましたが、夕刻になると次第に肌寒くなりました。

先ず初めに古峯神社の四名の巫女による、浦安の舞より行いました。此の舞は、「天地の神にぞいのる朝なぎの　海のごとくに　波たたぬ世を（昭和天皇御製）」との祈りを込め昭和十五年十一月午前十時、紀元二千六百年の奉祝祭が全国の神社で執行されました。その際、浦安の舞は、神慮を慰め奉るために全国で一斉奉奏され、以来、いまでも盛んに奉奏されています。紀元二千六百年奉祝会の制定当時、宮内省雅楽部楽長多忠朝氏により作曲振付されました。浦安とは心の安らかという意味で、平和を祈る心の舞です。古く日本の国名を浦安の国といったのは、風土が美しく平和であったからです。舞は扇と鈴の舞とから成っており、四人の舞姫があこめ衣装を着て、雲が流れる演出の中、前半は檜扇、後半は鈴を持って舞い、幻想的な雰囲気が醸されました。

悠久の舞

次に管絃平調の音取です。雅楽においては現在六つの代表的な調が有ります。壱越調、平調、双調、黄鐘調、盤渉調、太食調であり、各調が音取という小前奏曲をもち、その雰囲気を導きます。笙に始まり篳篥、龍笛、鞨鼓と各音頭に受け渡されていきます。平調の音取は、平調の曲を演奏する前に奏されます。

次に越天殿【平調、管絃曲】です。神楽曲の中で最も有名で、結婚式などでも流されており、民謡の「黒田節」などには、その旋律が用いられています。他に盤渉調と黄鐘調の越殿楽もあります。



蘭陵王

次に陪臚【唐楽、平調、管絃】です。曲は婆羅門僧正（インドの僧）と仏哲（南ベトナムの僧）により、天平八年（七三六）に伝えられました。舞は、聖徳太子が蘇我守屋の軍と対したとき、曲を奉し、その不思議な音色を

氏によって作曲、作舞された雅楽であり、宮城前広場において、文武百官外国使臣の参集の前で、男子四人によって舞われた奉祝舞楽です。その後、この曲はほとんど奏されることが有りませんでしたが、東京オリンピック（昭和三十九年）を記念して、多静子氏によって女舞が作舞され、新しい形式の神楽舞として、春は桜の花を秋は菊の花を持って舞います。

以上が古峯神社の楽部により演奏されました。次に、今回特別にお世話になりました、日光東照宮の楽部により、舞楽蘭陵王が演奏されました。

舞楽蘭陵王【唐楽、舞楽】。中国の武将蘭陵王長恭は、美しい将軍でした。味方の士気を上げる為、戦場に出る時その美貌を隠し勇猛な仮面をつけていました。周の大軍に勝ったときの敵を打ち破るありさまを舞としたものです。

会場には、約七百名の方が来聞き、戦い臨み勝利しました。この曲を模して作られたのが陪臚といわれています。管絃の陪臚は、早只四拍子（二拍と四拍の混合拍子）で奉されます。

次に悠久の舞です。「すえの世の　すえのすえまで　我が国は　よろずの国に　すぐれたる国」

悠久の舞は紀元二千六百年、当時の宮内省雅楽部楽長多忠朝

場されました。入場は無料としたかわりに入場者から募金を集め、地元・下野新聞社の下野交通遺児基金に寄託しました。また、会場には十年後に開封されるタイムカプセルが置かれ、「将来の夢」などを書いた子供たちの手紙が納められました。このコンサートも無事、盛大に行われました。むすび会の会員の皆様の協力と、会場を提供して戴いた護国神社様、演奏に協力して戴いた日光東照宮の皆様に心より篤く御礼申し上げます。これを励みに、栃木県の雅楽界が、発展するよう頑張って行きたいと思います。

御田植祭・抜穂祭・初穂曳

八坂神社　権禰宜　滝口貴史

今年度、むすび会では創立四十周年記念行事の一環として御田植祭・抜穂祭を斎行しました。

会員の協力により南那須町志鳥に御神田を選び定めて、五月初旬、斎主に滝尾神社田中禰宜、祭員に今宮神社福田権禰宜、私滝口の三名にて御田植祭を御奉仕しました。小雨の降る中、祭壇に供えられたイセヒカリの苗を祓い清め、祝詞奏上、玉串拝礼にて豊作を祈念した後、御田植の儀を執り行いました。

天候の被害もなく、秋を迎える頃には植えられた苗は順調に生長し、無事、抜穂祭を迎えられました。九月下旬、御神田にて斎主・温泉神社人見禰宜、祭員・滝口にて斎行。また、星野会長、野崎特別会計、伊藤幹事そして御神田の所有者をはじめ地域の方々を招き厳粛に祭祀を奉仕いたしました。修祓、祝詞奏上、斎主の手による稲刈の儀を奉仕し、玉串拝礼の後、あらためて参列者全員で稲の刈り取りを行いました。不慣れな私たちに較べ、手伝いに来てくれた年配の方々の作業は流石に手早く、私達が一把を刈る間に三把、

四把と刈り取っていたのがとても印象的でした。地元の人は「イセヒカリはこのあたりで作られているコシヒカリやヒトメボレとは違い、稲の生長が遅い品種だ」と話されました。この稲穂は伊勢の神宮で行われる初穂曳きに奉納いたしました。

十月　神嘗祭前日の初穂曳きでは、私達は伊勢の一日神領民となり、外宮までエイさ・エイさの掛け声のもと、初穂をのせたお曳木車を三百人の力を合わせて外宮の北御門まで曳きまわしました。お曳木車から初穂を降ろし、一人ひとりに渡された初穂を外宮の五丈殿に供え、豊受大神の大前に参拝し初穂引きは終了。夜には内宮にて由貴夕大御饌祭を奉拝いたしました。

今回、一年を通じて稲つくりを体験しました。これほどに大神の恵みを受ける作物は他にはないと感じました。

食膳の感謝の言葉に「たなつものももものきぐさもあまてらす　ひのおおかみのめぐみへてこそ」「あさよいに　ものくうごとにとようけのかみのめぐみをおもへよのひと」という二つの和歌があります。まさに日本の国は稲作文化であり、大神の恵みの国であるとあらためて確信いたしました。

四十周年記念事業の御田祭、抜穂祭、初穂曳に参加し無事終了できたこと、又ご協力を頂いた皆様に感謝をいたします。

戦没者慰霊祭に参加して

八坂神社　葭田真彦

昭和二十年八月十五日大東亜戦争は終りを告げました。広島・長崎への原爆投下、東京大空襲など多くの悲しみ中での終戦でした。

終戦の四ヶ月程前、米軍の上陸作戦により激戦地となった沖縄県で、栃木県護國神社御創建百三十年並びに本土復帰三十周年の節目に際し、この度、栃木県神社庁主催の「栃木の塔慰霊祭」が行われました。

現在では観光地として有名な沖縄も、先の大戦において米軍の上陸作戦により「ひめゆりの塔」に象徴されるような悲劇を生みました。軍民あわせて二十万余りの尊い命が失われ、この中には本県出身者も数多くいました。摩文仁の丘平和祈念公園の中にある栃木の塔には、沖縄戦戦没者六百七十六柱・南方諸

地域戦没者三万八百十九柱が合祀されております。慰霊祭では、散華された英霊の為に参加者それぞれが地元より持ち寄った郷土料理や特産物が供えられ、小林副庁長が斎主を、吉田庁長が祭文奏上を務められました。祭典には英霊を偲びつつ安らかなれと心を込め参列致しました。慰霊祭には英霊と同じ戦前生まれの方も参加され、祝詞・祭文の奏上を聞くうちに自然と涙を流される方もおられました。戦争を体験された方も体験されていない方も、祝詞や祭文に込められた思いを等しく胸に感じる事が出来た真に素晴らしい奏上でした。「国の鎮め」奏楽、「海ゆかば」奉唱が行われ、厳粛な中にも多くの英霊に対し誠の心を捧げ、神事は終了致しました。

今回の慰霊の旅では「ひめゆりの塔」「旧海軍司令部壕」も見学の予定でしたが、菱沼至広・小林靖両先輩と私の三名は、同日行われた神道青年全国協議会主催の「沖縄県全戦没者慰霊祭及び世界平和祈願祭」奉仕並びに参列のため、沖縄県護國神社に向かいました。

護國神社では、全国より集まった神職四十五名と共に祭典を御奉仕致しました。今回の慰霊の旅では、他にも八重山平和祈念館を訪れ、石垣島では戦争だけでなく蔓延したマラリヤによって悲劇が引き起こされた事、ひめゆりの塔以外にも多くの学徒が自決を選び慰霊碑がそれぞれの地に建っている事、移動の車中より広大な米軍基地を見た事など、改めて沖縄と戦争について考えさせられました。同じ日本人として現代に生きる我々は、英霊の意志を継ぎ、国を愛し戦争が生み出す悲惨さ愚かさを伝え、国の隆昌と世界の共存共栄を祈っていかなければと強く思いました。

三県合同青少年育成行法研修会

日光二荒山神社　佐藤洋誠

栃木県青年神職むすび会の行事である『三県合同青少年育成行法研修会』を平成十四年八月二十七・二十八日の一泊二日で茨城県大洗海岸にて実施を致し、参加をさせて頂きました。本年度は、栃木県青年神職むすび会創立四十周年ということもあり、むすび会だけではなく、茨城県・埼玉県の青年神職会との合同での禊や鎮魂の行法研修会として実施されました。

二十七日は、大洗磯前神社社務所に集合をし、次いで正式参拝をさせて頂きました。この後

に研修会の主である禊と鎮魂の行法を行いました。この日の天候は、台風の為、夕刻になるにしたがい風も強くなり、荒れて来ました。当然、海は荒れみるからに危険な状態の中での禊行法となりました。海岸で円形になり鳥船をし、掛け声と共に海に入り、荒ぶる海での中、皆一心に大祓詞を唱えました。この後の鎮魂行法は、宿泊先のホテルで行われました。短い時間での行法となりましたが、参加者の真摯さ、真剣さで部屋全体が熱気で包まれたように感じました。

二十八日早朝の禊は、台風の為中止になり、代わりに大洗磯前神社への参拝となりました。

本県の場合青少年育成でもあるため、子供達も参加をしていました。この為、禊や行法だけではなく、夜には花火を打ち上げたり、次の日にはアクアワールド大洗水族館の見学なども行われました。

台風の影響下での禊で、祖先の人々が、自分達に襲いかかる、台風や雷等の人の力ではどうにもならない強大なる自然の力に怖れ、また反対に自分達に恵みを与えてくれる自然に対し感謝

し敬い、神々を信仰していったことが実感できたように思われます。連綿と伝わったこの気持ち、心をこれからも伝えて行くことが大切だと感じました。

最後に研修会に参加の機会を下さった皆様方、また、場所を準備していただきました茨城県青年神職会の皆様に心より感謝致します。

四十周年記念事業
チャリティーゴルフ大会

中嶋神社　國友和広

去る平成十四年九月四日栃木県青年神職むすび会創立四十周年記念事業の一環として、氏子会青年会・むすび会チャリティーゴルフ大会を矢板市内のファイブエイトゴルフクラブにて開催を致しました。ファイブエイトゴルフクラブは、プロゴルファー丸山茂樹プロが運営するゴルフ場であり、ファイブエイトとは丸山茂樹プロがツアートーナメントにて最小スコア58を出しました記念に名付けられましたゴルフ場でもあります。

筆者スイング

当日は晴天にも恵まれ、氏子青年会とむすび会の総数一四四

表彰式

名の参加者により各個人の技量を競い合いました。最高のコンディションに恵まれまして、アクシデントに見舞われながらもスコアをコンスタントに纏める方も数多く見受けられ、和気藹々とラウンドを楽しむ事が出来た様で御座います。

チャリティーホールに関しましては、主にショートホールにて設定されておりグリーン場にてオンしていなければチャリティー基金を納めて頂く様な設定になっております。グリーン場にオンしている方も数多くのチャリティー基金を納め御協力頂きました。

全ての方のラウンドが終了した後、表彰式及びチャリティー基金の贈呈式がゴルフ場内のクラブハウス内にて行われました。栃木県青年神職むすび会の星野会長より御挨拶を頂いた後、表彰式が行われ最後にこの度集められましたチャリティー基金の贈呈式が行われました。基金総額は約八万円に達成し、この基金は栃木県青年神職むすび会星野会長よりとちのみ学園へ寄付される事となりました。

今後も今回のみに限らず、チャリティーゴルフ会を開催し多くのチャリティー基金が寄付出来る様にしていきたいものです。

チャリティー基金
八一、八八七円を
寄付しました。

記念植樹

十月十七日斎行

記念植樹奉告祭

斎主　人見文治
祭員　柳田耕史
祭員　阿久津喜大

神社庁に植樹された
「ゴヨウツツジ」

創立四十周年記念大会開催

日　時　平成十五年二月二十一日（金）
会　場　二荒山会館

創立四十周年記念大会の開催に際し、むすび会星野芳典会長より趣意書が発せられました。

【趣意書】

此の度、我が栃木県青年神職むすび会においては、平成十四年に目出度創立四十周年の佳節の年を迎える事となります。これを契機とし先輩諸兄の功績を称えると共に、これからの当会の指針・方針を明確に致し、今後の社会情勢に対応すべく、神社や神職の在り方を再認識し日々の神明に奉仕をしたいと存じます。日本人が本来の日本人たる心を取り戻す様努め、又古来よりの伝統・文化を子々孫々迄継承する為に、ここに『取り戻そう日本の心・伝えよう日本の伝統文化』と題して後記の事業を計画致しました。

就きましては、何卒この趣旨を御理解戴き、格別なる御高配を賜ります様宜しく御願い申し上げます。

平成十三年六月一日

各位

栃木県青年神職むすび会々長　星野芳典

奉告祭

平成十五年二月二十一日
午前九時より
栃木県神社庁神殿

【祭典奉仕者名】

斎主　小林　靖
副斎主　小幡　正之
祭員　伊藤　史展
祭員　柳田　耕史
典儀　香取　正義
伶人　篠田　薫
〃　大河原　肇
〃　鷹箸　久志

むすび会四十周年奉告祭祝詞

むすび会四十周年奉告祭式次第

定刻　一同　着席

修　祓
斎主一拝
献　饌
祝詞奏上
玉串拝礼
撤　饌
斎主一拝

第1部

記念講演

午後二時

演題　『自然と生きる』

講師　高木美保先生

プロフィール

昭和三十七年七月九日生まれ。八十四年映画『Wの悲劇』で女優デビュー後、ドラマ『華の嵐』の主役をはじめNHK大河ドラマなどにも出演。またバラエティー番組にも挑戦し、お茶の間の人気者にもなる。平成十年、両親とともに東京から栃木県那須高原に移り住み、家族とともに有機無農薬の野菜作りに取り組む。著書に那須での暮らしぶりをまとめた『木立のなかに引っ越しました』(幻冬舎)などがある。現在は、タレントとしての芸能活動に加え、田舎暮しの良さや自然の大切さをテーマとする講演やエッセイの執筆など幅広い活動を展開している。

第2部

記念式典

午後三時二十分

司会　豫風　浩行・佐野　由希子

一、開式の辞　菱沼　至広
一、神宮遙拝　星野　芳典
一、国歌斉唱
一、敬神生活の綱領唱和　香取　正義
一、会長式辞　星野　芳典
一、記念事業経過報告　小林　靖
一、来賓祝辞　吉田　健彦様　横瀬　勝壽様　塚本美代次様　小島　今興様
一、来賓紹介
一、「神道青年の歌」「美はしき山河」合唱
一、聖寿萬歳　提箸　克之様
一、閉式の辞　人見　文治

第3部

祝宴

午後五時

司会　佐野　由希子

◆開宴の辞　司会者
◆会長挨拶　星野　芳典
◆来賓祝辞　助川　通泰様
◆乾杯　黒川　正邦様

祝宴

◆中締　阿部　憲様
◆閉宴の辞　司会者

吉田庁長　祝辞

第2部

小林実行委員長　経過報告

横瀬初代会長　祝辞

大会ピックアップ

助川副庁長　祝辞

提箸四代会長による聖寿萬歳

第3部

阿部六代会長による中締

黒川五代会長による祝宴乾杯

むすび会発足からの
思い出の写真集

3代会長　吉田健彦先輩による乾盃

25周年記念式典で挨拶をする
初代会長　横瀬勝壽先輩

五代会長　黒川先輩より借用

昭和57年パラオ諸島慰霊の旅
パラオ空港ナッパヤシ造りの待合室にて

4代会長　提箸克之先輩による聖寿万歳

六代会長　阿部先輩より借用

パラオ慰霊祭

五代会長　黒川先輩（中央）より借用

パラオ諸島慰霊の旅　ヤップ島のゼロ戦残骸

アンガール島にて
1番手前　7代会長　中麿先輩

六代会長　阿部先輩（前列右端）より借用

昭和57年　一都七県野球大会にて
後列右から3番目　11代会長　柳田先輩

九代会長　若松先輩より借用

日光連山登拝　大真名子山にて
最前列右から2番目　8代会長　柳田先輩

九代会長　若松先輩（最前列左端）より借用

昭和63年　県内神社植樹

菱沼会長（左端）より借用

左から二番目　十代会長　上野先輩
左から三番目　十二代会長　稲　先輩
右から三番目　十三代会長　加藤先輩

平成9年　海外宗教視察　タイにて

◆協賛芳名簿◆

	氏名		氏名
栃木県神社庁		中村八幡宮	中里統彦
栃木県神社庁	宇河支部		中里元彦
	芳賀支部	千代ヶ岡八幡宮	堀口邦夫
	塩谷支部	長沼八幡宮	野沢矢嗣
	南那須支部	星宮神社	見目仁朗
	北那須支部	祖母井神社	北村正年
	上都賀支部	安住神社	齊藤隆一
	下都賀支部	天満宮	越口正一
	安佐支部	鹿島神社	塩田智徳
	足利支部	日枝神社	大塚吉
日光東照宮		闇龗神社	小森英世
二荒山神社	助川通叅	八幡神社	福田與一
	阿部憲	鹿島神社	小幡正之
	若松豊明	荒橿神社	小幡正男
	柳田文司	津島神社	岩松一雄
	上野武男	今宮神社	金子宏一
	大野房典	岩戸別神社	斎藤正洋
	荒井和宏	高原神社	和気達郎
	野崎正之	塩竈神社	伊藤文雄
	佐藤智則		伊藤史展
	金子宗人	箒根神社	宮本勝利
三祖神社	阿久津誠生		宮本利治
高龗神社	鈴木典治	靜神社	西山政典
八坂神社	葭田孝	鷲子山上神社	長倉樹
	葭田真彦	宮原八幡宮	齋藤房夫
	葭田容子		齋藤隆夫
	滝口貴史	八雲神社	黒崎健二
白鷺神社	上野正辰	三箇神社	吉田正導
	上野喜則	加茂神社	齋藤継愛
天満宮	萩野矢正美		齋藤継道
中嶋神社	國友晃昭	大田原護国神社	宇賀神亮二
栃木県護国神社	稲三郎	大田原神社	宇賀神直人
	稲寿		相馬秀和
智賀都神社	外鯨文行	那須神社	津田武兵衛
高龗神社	佐藤孝	温泉神社	桜岡米蔵
稲荷神社	手塚里次		桜岡静子
五料神社	増渕孝	乃木神社	重田正美
大前神社	柳田耕太		渡健二
	加藤直人		星野芳典
	柳田耕史		中村輝久
	加藤昌治		篠原正宏
	豫風浩行	箒根神社	佐藤幸穂
	福田光弘	塩原八幡宮	君島幹朗

	氏名		氏名
八雲神社	小泉忠光	太平山神社	小林一成
三島神社	大野房麿		阿部康夫
温泉神社	人見昇三		早乙女和弘
	人見文治		高木清之
黒磯神社	月江寛智		阿部恵一郎
湯泉神社	高根沢正夫	神明宮	神山佳也
二荒山神社	吉田健彦		神山拓之
	岡田靖	星宮神社	林唯元
	中麿輝美	星宮神社	大阿久岩雄
	柴田美晴	鷲宮神社	菱沼至広
	多田民男	磐根神社	新井隆宏
	伊原弘之	住吉神社	荒川濱子
	香取正義	諏訪神社	大和田登
	町井康祐	春日神社	板垣彰
	佐藤洋誠	胸形神社	栗原千早
	稲葉成孝	須賀神社	沼部春友
古峯神社	石原敬士		沼部博成
	星野善昭		沼部泰幸
	沼尾利光		橋口幸司
	阿部修一	安房神社	沼部正昭
	篠田薫	八幡宮	栗原城治
	渡辺幸雄	八幡宮	海老沼堯
	大河原肇	野木神社	海老沼雅夫
	大貫昭夫	雄琴神社	黒川正邦
	櫻木琢也	熊野神社	後藤清美
	伊豆山毅	磐裂根裂神社	刀川清満
	横山榮		刀川治久
	渡辺光司		平山善之
	森山めぐみ	鷲宮神社	宇賀神義宣
報徳二宮神社	武内節史		宇賀神秀雄
瀧尾神社	田中清	三宮神社	小林靖
	田中教文	唐澤山神社	佐野正行
高男神社	渡辺一雄		佐野由希子
岩崎神社	田辺一丸	星宮神社	新村貢一
瀧尾神社	増渕文男	宇都宮神社	影山寛
今宮神社	下妻良夫	示現神社	木村次男
	岡本俊和	八坂神社	宮田義丸
	山田和之	小藤神社	石田万寿
	福田財大	浅間神社	石田雅寿
磯山神社	金子信彦	伊勢神社	提箸克之
加蘇山神社	荒井俊司	三柱神社	宮原功
根裂神社	永田弘幸	八雲神社	日下部憙也
清瀧神社	篠田英夫	八雲神社	櫻木宏紀
賀蘇山神社	横瀬勝壽	日光鹿島神社	小野寺健富
	横瀬勝宣	八幡宮	小堀一郎

会員神社紹介

古峯神社

権禰宜　渡辺幸雄

【名　称】
古峯神社

【鎮座地】
鹿沼市草久古峯ケ原

【祭　神】
日本武尊

【御神徳】
御祭神の故事により、特に開運、火防を始めとして農、工、商、交通、海上の守護神として崇められ、古くは数百年間も継続されている講中もあり、現在も御神徳の高い大神様として、全国の講中崇敬者の方々より篤い信仰を頂いている。

【由緒・沿革】
当社は、鹿沼市の北西部、男体山や地蔵ケ岳など雄大な霊峰を背にする古峯ケ原高原の山麓に鎮座し、御祭神に第十二代景行天皇の皇子日本武尊をお祀りする。今を去る千三百余年の昔、隼人という方がご祭神のご威徳を慕い、古峯ケ原の浄地に御神霊を遷座したのが始まりと伝えられている。やがて日光山を開かれた勝道上人は、ここで修行を積み古峯の大神のご神威によって、日光開山の偉業を成しとげた。この縁起にもとづき、古峯神社を中心とする古峯ケ原は、日光全山二十六院八十坊の僧たちが修行に励む霊地となり、明治初めの神仏分離令で現在の古峯神社となった。ご祭神のお使いである天狗様は、飛翔して諸々の災厄を除災するという古くからの信仰を集めており、天狗の宿として広く根深い信仰圏をもっている。特に火防信仰は東北地方を中心に絶大である。又、参籠（おこもり）をして、より一層ご利益を賜わろうと、一夜を神懐（かみふところ）に抱かれ翌朝黎明（れいめい）の一番祈祷に参列し、心身ともに浄められ御神札をいただいて下山するという習わしがある。そしてこれは古来より今日に至るまで変わることなく受け継がれている。

【特殊神事】
当社では、旧暦七月七日に、七夕祭を行っている。
牽牛と織女の二つ星が一年に一度七夕の夜に行き逢うというお祭で、当社の正面玄関に祭壇設け、笹竹を一対華やかに飾り付け、参拝者の方に短冊に願事を書いて頂き、笹竹に付けて貰い、旧七夕祭に、祈願祭を行う。

平成十四年度　栃木県青年神職むすび会事業報告

4月2日　役員、幹事、正副委員長会議　宇都宮二荒山神社
4月17日　第五十四回　神道青年全国協議会定例総会　神社本庁
4月28日　雅楽チャリティーコンサート　栃木県護国神社
5月2日　第一回　神青協一都七県協議会定例会議　神社本庁
5月7日　御田植祭　南那須町
5月9日　定例総会　宇都宮二荒山神社
5月21日　とちのみ学園開園記念式典　佐野市とちのみ学園
6月12日　神青協一都七県協議会総会　東京都
6月18～21日　本土復帰三十周年記念栃木の塔慰霊祭　沖縄県
6月19～20日　神青協本土復帰三十周年奉告祭及び聖寿奉祝の碑修復奉告祭・沖縄県全線戦没慰霊祭及び世界平和祈願祭　沖縄県
7月8日　役員、幹事、正副委員長会議　宇都宮二荒山神社
7月12日　国立の戦没者追悼施設新設を断固阻止する国民総決起集会　東京　日比谷野外音楽堂
8月23日　第二回　神青協一都七県協議会定例会議　明治神宮
8月27～28日　三県合同青少年育成行法研修会　茨城県大洗海岸
8月29～30日　神青協夏期セミナー　神社本庁
9月4日　氏子青年会合同チャリティーゴルフコンペ　矢板市
9月20日　役員、幹事、正副委員長会議　宇都宮二荒山神社
9月26日　抜穂祭　南那須町
10月15日　伊勢神宮初穂曳き　伊勢神宮外宮
10月17日　植樹祭　栃木県神社庁
10月17日　臨時総会　宇都宮二荒山神社
11月25日　第三回　神青協一都七県協議会定例会議　東京都神社庁
12月8日　昇級者祝賀会、退会者慰労会並びに忘年会　鬼怒川温泉
1月20日　役員、幹事、正副委員長会議　宇都宮二荒山神社
2月6日　役員、幹事、正副委員長会議　宇都宮二荒山神社
2月11日　建国記念の日奉祝式典　宇都宮二荒山神社
2月12日　第四回　神青協一都七県協議会定例会議　神社本庁
2月21日　創立四十周年記念式典　宇都宮二荒山神社
2月26～27日　神青協国内諸宗教事情視察研修会　兵庫県神戸市
3月7日　次期役員会　宇都宮二荒山神社
2月21日　次期役員会　栃木県護国神社
3月13～14日　神道青年全国協議会中央研修会　北海道札幌市

平成十四年度 むすび会役員・幹事氏名

【役員】

会長	星野 芳典	乃木神社	権禰宜
副会長	菱沼 至広	鷲宮神社	宮司
副会長	人見 文治	温泉神社	禰宜
事務局長	伊原 弘之	日・二荒山神社	権禰宜
会計	荒井 和宏	宇・二荒山神社	権禰宜
庶務	香取 正義	日・二荒山神社	権禰宜
監事	堀口 邦夫	栃木県神社庁	主事
監事	篠田 薫	古峯神社	権禰宜
監事	小幡 正之	鹿島神社	宮司
議長	宇賀神直人	大田原神社	禰宜

【幹事】

宇河支部	葭田 真彦	八坂神社	禰宜
宇・二荒山神社	野崎 正之		権禰宜
芳賀支部	豫風 浩行	大前神社	権禰宜
塩谷支部	伊藤 史展	塩釜神社	権禰宜
北那須・南那須支部	滝口 貴史	八坂神社	権禰宜
上都賀支部	福田 財大	今宮神社	権禰宜
日・二荒山神社	香取 正義		権禰宜
古峯神社	大河原 肇		権禰宜
下都賀支部	刀川 治久	磐裂根裂神社	禰宜
安佐・足利支部	尾花 唯	神明神社	禰宜
唐沢山神社	佐野由希子	唐沢山神社	権禰宜

むすび会四十周年実行委員会

四十周年実行委員長　小林 靖　三宮神社
四十周年特別会計　野崎 正之　宇・二荒山神社

【募金特別委員会】

委員長	葭田 真彦	八坂神社	禰宜
副委員長	町井 康祐	日・二荒山神社	権禰宜
副委員長	刀川 治久	磐裂根裂神社	禰宜

【教化・事業企画委員会】

委員長	田中 教文	滝尾神社	禰宜
副委員長	福田 財大	今宮神社	権禰宜
副委員長	石川 安一	安住神社	権禰宜

【記念誌編集委員会】

委員長	佐藤 智則	宇・二荒山神社	権禰宜
副委員長	佐藤 洋誠	日・二荒山神社	権禰宜
副委員長	中里 元彦	中村八幡宮	禰宜

【式典委員会】

委員長	豫風 浩行	大前神社	権禰宜
副委員長	滝口 貴史	八坂神社	権禰宜
副委員長	金子 宗人	宇・二荒山神社	権禰宜

退会者

氏　名…星　野　芳　典
奉　務　先…乃木神社
生年月日…昭和36年3月26日

氏　名…狐　塚　泰　久
奉　務　先…高靈神社
生年月日…昭和37年6月2日

祝ご結婚

氏　名…橋　口　幸　司
奉　務　先…須賀神社
挙式日時…平成13年5月12日
式　場…目黒雅叙園
新婦氏名…理　恵（りえ）
本人のコメント…楽しい家庭を築いていきたい。
奥さんより一言…幸せな家庭を築いていきたい。

＊　＊　＊　＊　＊

氏　名…阿　部　恵一郎
奉　務　先…大平山神社
挙式日時…平成14年9月14日
式　場…あすなろ会館
新婦氏名…友　子（ゆうこ）
本人のコメント…より一層神明奉仕に勤めると共に明るく楽しい家庭つくりに頑張ります。
奥さんのコメント…分からないことばかりですが、しっかりつとまるよう頑張ります。

祝ご誕生

氏　名…小　堀　真　洋
第一子氏名…丈　陽（たけはる）
生年月日…平成14年5月31日
親からの希望…丈夫な体と、太陽のように暖かく強い心をもった子になるよう願いを込めて命名しました。自分のことだけでなく、周りの人や世の中の為にもすすんで働ける人になって欲しいです。

＊　＊　＊　＊　＊

氏　名…中　里　元　彦
第一子氏名…文　香（あやか）
生年月日…平成14年8月9日
親からの希望…健康で温厚篤実に育ってほしいです。

＊　＊　＊　＊　＊

氏　名…橋　口　幸　司
第一子氏名…真　衣（まい）
生年月日…平成14年11月14日
親からの希望…元気で明るい子に育ってほしい。常に他人を思いやる優しい心と自分なりの考え、目標を持った子供に育ってほしい。

＊　＊　＊　＊　＊

氏　名…石　川　安　一
第一子氏名…眞　矢（まさや）
生年月日…平成15年1月7日
親からの希望…出産が普通分娩から緊急に帝王切開になったので、母親が産声を聞いておらず、覚醒してからの母子の対面には感動しました。この子に高望みはしません。素直ですくすくと寵愛される子に育ってほしいです。

編集後記

●二荒山神社　佐藤　智則
皆様の御協力に偏に感謝いたします。有難う御座いました。

●中村八幡宮　中里　元彦
記念誌編纂に御協力下さいました皆様に感謝いたします。

●二荒山神社　佐藤　洋誠
皆様の御協力により発刊できましたことを感謝申し上げます。

●間々田八幡宮　栗田　城治
充分な協力ができませんでしたが、すばらしい体験、心にしみました。

●中嶋神社　国友　和広
この様な記念誌編纂事業に参加できた事を光栄に思います。

●大原神社　長島　章博
記念誌の作成に協力でき大変良い経験ができました。

●栃木県護国神社　菅　浩二
この度は皆様の末席につらなり光栄に存じます。

●古峯神社　渡邊　幸雄
編集において、種々勉強をさせて頂きました。有難うございます。

●八雲神社　小堀　真洋
広報誌コンテストでの統理賞受賞は、むすび会四十年の成果。先輩方に感謝。

栃木県青年神職むすび会事業のご案内

―旨味を作り出す大地のちから―

『御供物』

定価　**200**円

■名　　称　粉末山芋
■原材料名　大和芋
■内 容 量　10ｇ×２袋入
※社名印刷は別途

『徹 饌』

各定価　**100**円

■名　　称　粉末山芋
■原材料名　大和芋
■内 容 量　10ｇ×１袋入
※社名印刷は別途

ひとくちようかん
１箱　３本入

【お申込み先】

栃木県神社庁青年神職むすび会事業委員会

〒321-0015 栃木県宇都宮市八幡台12－24
TEL 028 (625) 2011　FAX 028 (624) 3217
(担当：堀口)

広告協賛者一覧

ご協賛ありがとうございました

社寺専門店(御用達・錺師(カザリシ))
屋根銅板葺　飾金具工事

有限会社
鈴木錺金具工芸社(カザリカナグ)

〒321-1412 栃木県日光市東和町57-1
TEL 0288(53)1121
FAX 0288(54)3263

祈りをかたちに

神社授与品・記念品御奉製

株式会社 長谷川製作所
代表取締役 長谷川 和夫
本社 〒114-0004 東京都北区堀船3-20-13 TEL 03-3912-6161(代表) FAX 03-3912-3131
草加営業所 〒340-0025 埼玉県草加市谷塚仲町466-1
TEL 0489-21-1221(代) FAX 0489-21-1515

各授与品、記念品奉製

金襴錦守、合成樹脂製守、紙札守
木札、金属製守、反射ステッカー
●その他各種授与品御希望に奉製致します。

株式会社 三愛工芸

〒311-4143 水戸市大塚町字谷津1761-16
TEL 水戸 (029)251-2051(代)
FAX 水戸 (029)253-5844

営業品目
縁起物入おみくじ・金属製守・木札守・紙札守
金襴錦守・各種熊手,守護矢・朱印帳

おまもりの奉製
株式会社 阿部

本社・工場 〒323-1104 栃木県下都賀郡藤岡町藤岡213-7
TEL (0282) 62-1010(代表)
FAX (0282) 62-2061

宮内庁
神社本庁・栃木県神社庁・各県神社庁
全国神社・小笠原流弓馬術礼法教場
御用達

株式会社 大槻装束店

東京・上野駅前

東京都台東区東上野3丁目17番9号
電話 03(3835)3201(代)
FAX 03(3835)0617
http://www.ootsuki-shozokuten.com

麻・鈴緒・合繊α縄(注連縄)製造
有限会社 モミヂヤ

〒328-0042 栃木市沼和田町12-14
フリーダイヤル 0120-22-1312
FAX 0282-22-1387
http://www.t-cnet.or.jp/~momidiya/f-top

営業品目
神具・祭具・鳥居・神棚・みこし・みたまや・御神木札
絵馬製作販売・御装束・授与品
神前結婚式場装備一式・やきもの全般・御守奉製

株式会社 民俗工芸

本　社／〒857-1162 長崎県佐世保市御本町17－2
TEL 0956-34-5500(代) FAX 0956-34-5511

御注文専用フリーダイヤル
TEL 0120-534-550　FAX 0120-872-550

Eメール　info@minzoku.co.jp
ホームページ　http://www.minzoku.co.jp

全国各神社御用達
神符・守札・木札・ビニール守・錦守・集印帳
交通安全守・御守袋・守護矢・ステッカー
奉書紙・書道半紙・画仙紙・色紙・他

創業100年 真心で奉仕する
今村紙業株式会社
代表取締役 今村　力男
〒409-3601 山梨県西八代郡市川大門町6,237-11
TEL 055(272)0514(代)
FAX 055(272)8818

創業90余年の御信用
おみくじ機
おみくじ
製造販売
(有)女子道社
〒745-0302 山口県都濃郡鹿野町
TEL 0834-68-2001
FAX 0834-68-2958

伊勢名物 岩戸餅
お食事・休憩・おみやげ……。
伊勢神宮に一番近い店
伊勢内宮前 岩戸屋
〒516-0025 伊勢市内宮前 ☎(0596)23-3188 FAX(0596)28-1322
http://www.iwatoya.co.jp
E-mail:iwatoya@iwatoya.co.jp

県内各神社様、工事拝命先（順不同）

日光東照宮	矢板木幡神社
日光二荒山神社	小川温泉神社
宇都宮二荒山神社	足利樺崎八幡宮
真岡大前神社	佐野人丸神社
大田原那須神社	下野一社八幡宮
西那須野乃木神社	祖母井神社
氏家今宮神社	足利八雲神社
足利星宮神社	一瓶塚稲荷神社

株式会社
小西美術工藝社
〒321-1431 栃木県日光市山内2362　TEL 日光(0288)54-1198(代)
〒108-0074 東京都港区高輪1-5-22　TEL 東京(03)3447-1481(代)

神社本庁
各神社
御用達
●交通安全御守護　●御社頭授与品
●開運招福鈴　●御参拝記念品
立案調製致します。
◆技術と信用◆
鈴木徽章工芸株式会社
〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1
TEL. 03-3814-1811　FAX. 03-3818-8332

創業130年
各種御神符・守札
その他授与品全般
湊御神符奉製所
株式会社 湊
伊勢市神宮会館前（〒516-0025）
TEL (0596) 22-2442(代表)
FAX (0596) 28-8445

カワラケ奉製専用機械の開発に成功致しました。
特別御奉仕品
素焼き
かわらけ
単価 50円
表面には神社紋・神社名
裏面には神社角印も入ります。
※見本をお送りします。カタログをご請求下さい。
神具関係各種一式
合資会社 可児商店
無限責任社員 可児安一
愛知県瀬戸市共栄通り5－5
TEL 0561-83-3674(代) FAX 0561-82-4261

創業三百年の伝統

宮内庁・神宮司庁・神社本庁 御用達

井筒

装束・調度・御神輿・雅楽器・
舞楽衣裳・授与品・稚児衣裳

〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
本　　店　フリーダイヤル0120-075-980
授与品部/本店　フリーダイヤル0120-075-980
東 京 店　フリーダイヤル0120-075-980
福 岡 店　フリーダイヤル0120-075-980

全国各神社
栃木県神社庁　御 用 達

各神社のお札お守のお手伝いをして100年

神符・神札　金 閣 御 守　守 護 矢　ステッカー
御守・木札　プラスチック守　奉書・半紙　テレホンカード
交通安全札　ビニール守　色紙・大麻

和紙製造印刷加工

有限会社 ㊐ 丸井紙店

〒409-3600 山梨県市川大門町763　TEL 0552-72-0136・0762
FAX 0552-72-3966
● 振替甲府6－2275　■ 取引銀行　山梨中央銀行　市川支店㊐121
第一勧業銀行　甲府支店㊐1612590

神社は神社暦を！

少部数からお受け致します。
ご注文、お待ち申し上げております。

日本造暦協会
日本神社暦編纂会
有限会社　神明館

〒102-0071
東京都千代田区富士見2-2-16
☎ 03-3262-0778　☎/FAX 03-3261-9365

誠実と真心で奉仕する
御守・授与品・参拝記念奉製

御一報次第カタログ御送り致します。

グリーン産商株式会社

代表取締役　柚木　忠

〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
TEL　大阪（06）6702－6009番(代)
FAX　大阪（06）6797－5896番

授与品奉製

伊勢の
株式会社 神路社

〒516-8611 伊勢市岩渕二丁目5番29号(私書函26号)
TEL (0596) 24－5858(代表)
FAX (0596) 24－5110

御装束、祭典用具、結婚式場設備、
舞楽装束の御用命は

宮内庁・栃木県神社庁御用達

森 装 束 店

〒160-0023 東京都新宿区西新宿4丁目7番21号
電話　東京（03）3376－4631番

福助株式会社　足袋・和装用品代理店

株式会社 福 生

〒761-8076 高松市多肥上町61-1
堺営業所　〒590-0953 堺市甲斐町東1丁2-30
フリーダイヤル 0120-29-0068
フリーダイヤル 0120-29-0051
http://www.tabiya.net/

環境にやさしい
おまもりをめざして

京のおまもり

京都奉製株式会社

[東京営業所] 東京都文京区本郷三－四－一九
電話 (〇三) 三八一八－一四六一
[フリーダイヤル] 〇一二〇－一六四－二四

全国で初めて!!　特殊洗浄の技術
—安価で新品に変わる御翠簾と神具—
(御翠簾、御三宝、八足案、外祭案等の洗浄)
有限会社　瀧　澤
〒168-0065　東京都杉並区浜田山4－15－13
TEL 03－3317－2081(代)
FAX 03－3317－2055
尚、御新調も承っております。御気軽に御相談下さい。

神祭具・御装束・雅楽器類
結婚式場調度
(株)高善装束店
代表取締役　桑　眞　一
〒113-0021 東京都文京区本駒込3－2－9
TEL 03 (5815) 8 7 7 1
FAX 03 (5815) 8 7 7 2

営業種目
神職装束・神楽装束・稚児装束・時代装束・祭器具
調度品・神輿・鳳輦・御台車・記念品類各種
染織品各種・室内装飾調度・袋物・御家庭用御宮・御霊車
創業寛永年間
宮内庁御用達
(株)高田装束店
東京都千代田区九段南3丁目9番4
〒102-0074　TEL. 03 (3261) 1201・9602
FAX. 03 (3262) 1789

神社仏閣奉製品メーカー
(有)ときわ奉製
水戸市河和田町419
TEL (029) 251－1421(代)
FAX (029) 251－1608

社寺建築請負い
株式会社　石川工務店
代表取締役　石川恒雄
〒321-1406 栃木県日光市松原町1233番地
TEL 0288-53-0408

神仏具　銅・胸像　その他　製作施工
神馬

(株)平和合金
〒939-1118 富山県高岡市戸出栄町56－10
TEL 0766 (63) 5551
FAX 0766 (63) 5131
ホームページ　www.heiwagokin.co.jp

年に1度は家族写真!!
シンガイ写真館
〒320-0026　宇都宮市馬場通り2-2-5
TEL 028-633-1301

●全日本シティホテル連盟
●ＪＴＢ協定旅館ホテル連盟
●日本観光旅館連盟
UTSUNOMIYA
ホテル丸治
〒320-0034　宇都宮市泉町1-22
TEL 028-621-2211　FAX 028-621-6027
フリーダイヤル　0120-37-0215
P タワーパーキング：110台収容(B1F) ★マイクロバス送迎もございます。
★客室インターネット接続

御社頭授与品奉製

※御希望通りの御調製申し上げます。
御一報次第参上致します。

新日本工芸株式会社

〒311-4153
茨城県水戸市河和田町丹下3891
電話 (029) 251－0997 (代)
FAX (029) 252－8288

割烹
うをのぶ

ご予約は
フリーダイヤル
0120-243580
宇都宮市塙田2-5-52

下野新聞社

本社/栃木県宇都宮市昭和1丁目8番11号
〒320-8686 TEL 028 (625) 1111 (代)
http://www.shimotsuke.co.jp/
購読のお申し込みは
フリーダイヤル 0120-810081

栃木県知事登録旅行業　第2－486号

アイケートラベル
壬生営業所

〒321-0225 栃木県下都賀郡壬生町本丸2-10-5

TEL：0282-81-1513
FAX：0282-81-1514

JTB 宇都宮支店

〒320-0801 宇都宮市池上町4番1号

1F 国内旅行　☎028-614-2000(代)
FAX 028-614-2004
●営業時間／10:00～18:00(祝・振祝・年末年始休業)

2F 海外旅行　☎028-614-2002(代)
FAX 028-614-2006
●営業時間／10:00～18:00(祝・振祝・年末年始休業)

4F 団体旅行　☎028-614-2001(代)
FAX 028-614-2005
●営業時間／9:30～17:30(日曜・祝・振祝・年末年始休業)

Prelude to Happiness

◇ご婚礼、ご披露宴、ご宴会、諸会議場に
どうぞ、お気軽にご利用下さい。

二荒山会館

宇都宮市馬場通り1丁目1番1号
TEL 028(622)5273

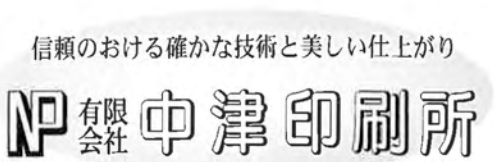
絵馬・御札・神社授与品専門店

株式会社 **晃栄商会**

代表取締役　小杉高士

〒321-1421 栃木県日光市所野1388番地
TEL 0288(53)4186 FAX 0288(53)4488

信頼のおける確かな技術と美しい仕上がり



代表取締役　中津己代治

〒321-1406 栃木県日光市松原町320-1
TEL 0288-54-1529
FAX 0288-53-0850

【写真】黒羽町・温泉神社磯上桜前での夜神楽